

明倫短期大学研究会講演抄録

第59回：2001年6月14日（木）

歯科診療に適した環境 色彩について

木暮 ミカ 講師（歯科技工士学科）

色は医療施設の設計には欠かすことのできない重要な役割を持つ。病院という空間を単なる機能性だけで追求するのではなく、そこを利用する人間の心と身体の状態に相応しいデザインとして色彩設計することで、患者にとってはその病院に対する好感度や歯科治療に対する心理面における好影響が期待でき、術者にとっては眼精疲労の軽減などによって作業効率の向上が期待できる。なお、色彩設計の根拠として色彩療法の手法を取り入れることは非常に有効であると思われる。今回は、その具体的手法を紹介した。

不登校学生の心性（心模様）について

下河辺 宏功 教授（歯科衛生士学科）

本学においても不登校学生は年々確実に増えており、その大半は不幸な道をたどっている。不登校とはなにか。その捉え方にはいろいろあるが、小柳晴生は「引籠り」すなわち、「寺に修行に行く」というポジティブな行動としてみている。このような観点から学生と対応すれば、新しい解決策が見出せるものと思われる。本講演では不登校学生を生み出す社会的背景について述べ、引籠り学生のカウンセリング手法について模索した。

第60回：2001年6月28日（木）

各種伝染病予防法の廃止と感染症 新法制度の問題点

福島 祥紘 教授（歯科衛生士学科）

21世紀はある意味では、新しい感染症との闘いの世紀であろう。医学や医療の進歩は旧来からの伝染病患者の著しい減少を招いたが、その一方で人的・物的な国際交流の増大は熱帯・亜熱帯の未知の微生物との接触する機会を増やすことになり、輸入食品・大量流通食品の汚染、耐性微生物の出現は新しい感染症の温床となる。本邦では、1999年4月1日から、らい予防法・エイズ予防法・性病予防法・伝染病予防法を廃止して、現状に即した＜感染症新法＞を制定した。その意味する所と問題点について論じた。

第61回：2001年7月12日（木）

顎変形症と矯正技工 —シーネ製作法について—

柴田 恭典 助教授（歯科技工士学科）

近年、顎変形症に対する治療法が進み、外科と矯正歯科が連携して治療を行うようになってきた。治療は、術前矯正・外科手術・術後矯正と経過をたどる。外科手術は顎の変形の程度により、下顎の骨切り或いは上下顎の骨切りが行われる。その際、矯正医の望んだ位置に術後の顎を位置づけるため、ほとんどの場合シーネと呼ばれる咬合床を製作する。上下顎の手術をするときは、先に上顎の手術をし、その位置を決め、それから下顎の手術を行う。そのため、上顎位置決めシーネが必要となり、計2枚の製作を必要とする。今回、市販の咬合器を改造し、模型をマウントしたまま上顎を3次元的に移動し、上顎位置決めシーネを製作することが出来たのでここに報告する。また、実際の症例および歯科技工製作上の手順を紹介する。

臨床実習における保健所実習の意義

石崎 愛 補手（歯科衛生士学科）

歯科衛生士学科学生は臨床実習の一貫として新潟市保健所で実習を行っている。様々な保健所事業の中から最も事業の概要が把握できる妊婦保健指導事業を選択し、実習効果を上げる為に事前に保健所の目的と組織・事業・母子歯科保健事業等を学習する。実習後に提出される記録から①保健所事業の内容②多職種連携③妊婦の精神的・身体的変化④歯科保健指導方法等が理解されていることが、実習効果として挙げられた。

第62回：2001年7月26日（木）

文法指導と学習スタイル

廣瀬 浩二 助教授（歯科衛生士学科）

文法指導を受ける学習者の側から分析を行った。文法指導を帰納的アプローチと演繹的アプローチの両面から行い、その結果を学習スタイル、外向性・内向性、右脳支配・左脳支配、文化的影響の4つの側面から検討した。各側面ともそれほど顕著な特質は見られなかった。ただ、強い不安と回避（Hofstede,1986）を特徴とする日本の文化的背景の影響が少なからずあることがわかった。